



T-time

帝塚山学園広報誌

2019/Mar.

第5号

2019年3月7日発行

帝塚山大学・帝塚山高等学校・帝塚山中学校・帝塚山小学校・帝塚山幼稚園



新しい挑戦

麗らかな春の日差しを浴びて

芽吹く新しい生命

移りゆく季節の中で

今、それぞれの挑戦が始まろうとしている…



理事長 年頭挨拶から

「学生ファーストの視点で 面倒見の良い学園に」

学校法人 帝塚山学園理事長 吉川 勝久



皆さん、あけましておめでとうございます。平成最後の新年はいかがでしたでしょうか。

学園にとっては、平成31年は、第4次中期計画の折り返しの年です。折り返しの年度の新年にあたりまして、また、2年後の学園創立80周年を迎えるにあたり、皆さんに改めて、教職員が一丸となり、「学生、生徒、児童、園児ファーストの面倒見の良い学園」を目指していただきたいと思います。

青山学院大学の陸上部を率いる原晋監督は、入学してくる学生がそれほど強い選手でなくても、工夫に工夫を重ね、今では大学最強のチームに仕上げました。今年の箱根駅伝は、5連覇にはなりませんでしたが、総合2位、復路1位という結果は、非常に立派な成績だと思います。

プロ野球の広島東洋カープは、ドラフトの後半の順位の若手選手を育てて、セリーグ3連覇を果たしました。主力選手のほとんどが生え抜きで、年俵が他のチームより低くても努力研鑽することで優勝できるのだということを示したことは、皆さんもご存知だと思います。

慶応義塾大学の前塾長で、日本私立学校振興・共済事業団の清家篤理事長は、「事業団の最も大切なテークホルダーは学生であり、学生が人生を振り返ってあの学校に入ってよかったと思ってもらえることが最も大切なことである」と言っています。事業団としても、教職員ではなく、学生ファースト、教育ファーストが大切であると強調していると思います。

皆さんの仕事は、何をおいても、学生ファースト、子どもファースト、教育ファーストであり、帝塚山学園に入った学生、子どもをいかに成長させて送り出すかです。学生生徒、児童の所為にならず、教職員の工夫、努力が大切です。その積み重ねによって学園の運営に活力、勢いをつけて、私がいつも皆さんにお願いしております経営の健全化に結びつけるのだということ、強く申し上げお願いしておきたいと思います。教職員のベクトルを合わせて、一丸となって、今年も頑張っていきたいと思います。

「内なる充実と次のステージへの準備」



学校法人 帝塚山学園 学園長

富岡 将人

た段階と考えていますが、偏差値帯の方では、その偏差値帯の生徒、保護者、高校の進路指導の先生方、そして世間に如何に支持されるかだと思います。

そのためには、短期的には、(1)戦略的広報の充実 (2)テクニカルな偏差値向上策（これは定員が確保されている状況でなければ効果的ではない） 中期的には、(3)資格の取得 (4)仕事・就職先の開拓 (5)就職支援などが必要です。しかし、これらの施策を進めるとき、「絶対に学生の責任にしないこと」が成否の鍵だと思います。もちろん、手がけていることも結構あります。例えば、近鉄難波駅広報、車内広告、学園前駅の看板のリニューアル、学園HP、学園広報誌T-time、奈良テレビ広報など。組織としては、法人本部に教育連携室、大学に就職支援センターを設置、高校を巡回して志願者増を図るアドバイザーチーム等です。今後一層様々な取組をスクラップ・アンド・ビルドで行う必要を感じていますが、結局これらの基盤づくりは学園のあるべき姿を実現するために必要な「教育内容の質の向上」を支えるものと考えています。

「実学の帝塚山」につながる取組を一緒に考え、実行していきましょう。

新年明けましておめでとうございます。さて、今年4月から大学は、昨年の経済経営学部経済経営学科に続き、「教育学部こども教育学科」がスタートです。これは

「第4次中期計画」「財政健全化計画（大学編）」（H28・3・29理事会承認可決）に従って学部学科再編の一環として実施したものです。これらの計画も来年度から後半の3年が始まります。我々は組織人として、前半3年の振り返りと後半の取組目標、具体的成果物を明確にした上で行動しなければなりません。

帝塚山学園では、あるべき姿を実現するための3つの柱を「教育内容の質の向上」「組織力の強化」「財政の健全化」と明記し

ています。とりわけ、組織力の強化については、チェスター・I・バーナード（1861-1961）の組織論では「共通目的」学園という中期計画、財政健全化計画「協働意欲」教育連携、所属・部署連携が相互にWIN-WINの関係になることを考えて実行する。（教育連携小中管理職会議、大学に開設の教職支援センター）「コミュニケーション」積極的な情報共有」が基本とされています。

次に、「選ばれ続ける総合学園」を実現するため、中期に「学生の安定的確保（行動計画に記載）する基盤づくり」についてですが、18歳人口が減り続け、進学率もほぼ同じですから「大学サバイバル」が始まっていると認識せざるを得ないと思っています。「学生の安定的確保」には「時代を先取りした大学規模の適正化と各学部学科共に受験者の多数いる偏差値帯であること」（コンサル談）なのでしようが、現実はそのよう簡単にはいかないのです。

大学規模は健全化計画等で概ね適正化し

幼小・大教育対談 塚本真紀園長・池田 節小学校長・蓮花一己学長

テーマ「幼稚園・小学校・大学の教育連携を通じた学び」



池田小学校長・蓮花学長・塚本幼稚園長（左から）

帝塚山学園は、第4次中期計画の重点目標として、「教育連携の強化」を掲げ、幼稚園から大学までが一体となってその推進に取り組んでいます。学園広報誌「T-time」では、教育連携対談第3回として、帝塚山大学の蓮花一己学長、池田節小学校長、塚本真紀幼稚園長の3人が「幼稚園・小学校・大学の教育連携を通じた学び」をテーマに話しました。

（聞き手 教育連携室次長 奥田 秀紀）

総合学園として教育連携を通して育まれることについて、どのようにお考えでしょうか。

塚本 まず何よりも教員の意識が変化しました。これまで隣り合う学校が何をしているか知る機会も少なかったのですが、互いの学校園を理解し、学び合えるようになってきたことがとてもよかったです。今、大学とは、「食育」を通じた連携を深めています。園児と一緒に参加した保護者は学生さんの姿も見て「いい学生さんですね」と興味をもっていただき、小学校だけでなく、中高、大学にまで関心をもっていただけるのは幼稚園としてもメリットだと思います。

池田 小学校の上級生がじゃがいも掘りや絵本読み聞かせなどで園児と接したとき、普段見せない成長した姿を見せる子どもが多くいます。学園の中で異年齢交流することで子どもの自己有用感が育まれる貴重な経験につながっています。また、花火大会やバザーに参加してくれた大学生に同じ学園という親近感があり、子どもたちは安心して接することができています。

蓮花 昨年、文学部日本文化学科と現代生活学部居住空間デザイン学科の学生が「奈良の昔のくらし」をテーマに

小学校で授業し、小学生に大変興味をもってもらいました。大学での学びを小学生にわかりやすく教えるという貴重な体験は、学生その後の学びにも生かされ、学科全体の活性化にもつながっています。

今年度の教育連携で最も印象に残る取組はどのようなことでしたか。

塚本 大学生が幼稚園の給食の献立を考えてくれました。保護者のアンケートから知りましたが、学生さんたちが子どもたちにもっと喜んでもらえるように取り組み、細かい注文にも柔軟に対応してくれたことが印象に残っています。継続することが力になっています。また、小学校の先生が幼稚園に来てくださり、保育について感想も聞かせていただくなど、幼小の教員間の連携が強まり、安心して園児を小学校に送り出せています。

池田 今年度、印象に残る取組は、小学校とつながろうと学生が自発的に提案をし始めてくれたことです。小学校農園で幼小とじゃがいも掘りをした大学の学生サークル「てぶかファーム」の学生から「給食の材料として使ってほしい」と提案を受け、そのことが実現しました。さらに、餅つきを手伝い

池田校長 「温かい学園として、最後まで育て上げる連携」



たいという現代生活学部子ども学科の学生の申し入れもあり、日々の教育連携の延長上で、総合学園だからこそできたことです。

蓮花 いろんな場で学生も子どもたちとかかわることができて喜んでいきます。今春、幼小教員を養成する教育学部が誕生します。学園内で学生と子どもとのかわりをさらに発展させていきたいと思っています。

今後、新しくどんな連携に取り組んでいきたいとお考えですか。

塚本 職場としての幼稚園を理解してもらえたらうれしいです。学生が預か

り保育の手伝いを通じて、子どもや教員の姿を見て、この園で働きたいと思う機会になっていただけたらと思います。

池田 学生ボランティアによる「学習支援」に取り組んでいきたいと思えます。授業の中で困っている子や取組が遅れている子を学生が授業の中で支援してくれると助かります。一人の担任だけではケアに限界があり、学習支援は教員間の要望でもあります。子どもにとっても他校の学生ではなく、同じ学園の学生という安心感があり、学生にとっても、生の現場での体験が後に生きてくると思います。

蓮花 本学の学生が帝塚山幼稚園でインターンシップを経験することができれば、学生の理解は一層促進されるものと思います。また、学生同士が複数名でペアを組みチームを作って学習支援に取り組むこともいいかと思えます。心理学部では県内で子どもの学習支援を通じたケアサポートに取り組んでいます。

池田 専門的知識をもって子どもを支援してもらえたらありがたいことです。**蓮花** 新しい教育学部を核にして、全学的に幼小と関わっていきたくと思っています。小学校での英語教育、情報化社会全般で求められるリスク管理な

どを専門とする教員もおられ、そこにさらに学生を関わらせると面白いと思います。そのアプローチを考えています。**池田** 情報処理能力、セキュリティ、プログラミングを総合的に教える情報科の授業に学生に入ってもらえたらいいですね。これからは、どんな先生でも情報科を教える立場になっていくと思います。

蓮花 学生が実際に小学校で教えてみると、自分の至らないところがわかり、勉強になります。**塚本** 幼稚園の保護者には、将来役立つ英語やプログラミングをというタイプと、子どものときにしかできない体



塚本園長 「学園内の相互理解、結束力を高める教育連携」



蓮花学長「教育学部を核に全学での教育連携で幼小支援」

験をしっかりやって身に付けさせてほしいという2つのタイプがいらっしやいます。学園の協力で幼稚園でも英語、プログラミング教育に取り組んでいます。主軸は学び取る力を蓄えないと習得できないと説明していますが、もっと英語やプログラミングをという保護者もおられ、二極に分かれています。蓮花 確かに保護者のニーズへの対応は必要です。英語は国際的な知識やネットワークをつくるコミュニケーションツールであり、情報もコンピューター処理だけではなく、情報の収集や活用を通して世界を理解し、社会で生きていく力が育成されます。

根っこを鍛える、人間力を育てることをトータル的に実践しているというアピールが学園の強みになっていくと思いますが、2年後の学園創立80周年へ向けた抱負をお聞かせください。
塚本 長い歴史の積み重なった学校・学園を大事にしていかなければなりません。教職員が結束力を高め、互いを知り、学び合っていくことが大事だと思います。それが子どもに還す力になっていくと思います。保護者に長い歴史の中にあることや、学園内の連携の動きを知っていただければ、これからの学園での生活を楽しみにしてもらえらると思います。

池田 お預かりしたお子さまを最後まで責任をもって育て上げることが教育です。少子化が進み競争力が問われる中で、社会から選ばれ続ける、持続発展できる学園であり続けるためには、2歳児から大学までを有する総合学園の施設の中で、教員の人的資源を使ってその強みを発揮し、温かい学園として世の中に受け止めてもらうことだと思います。

ため、本学では、地域の中で活躍できる人材の育成を目指しています。プロジェクト型学習を通じ、実行力と人間力を養成しています。プロジェクト型学習は教員の力が求められます。積極的に関わっている教員はまだまだ一部に過ぎませんが、この2、3年は、各学部で広がりを見せています。教員の理解を得て、プロジェクト型学習を教育の軸にしていきたいと考えています。

蓮花 地域とのかかわりが大学の大きな力になっていきます。「実学の帝塚山大学」をスローガンに学生が地域での学びを通じて、社会人として活躍できる人材を育成していきたいと思っています。
今、大学を取り巻く環境や帝塚山大学に求められる役割等について、お聞かせください。
蓮花 大学を取り巻く環境はますます厳しくなっています。18歳人口の減少は深刻な問題であり、2021年度は114万人を割る見込みとなっています。そのため、学生募集は大学にとって大きな課題であります。また一方では経済のグローバル化やIoTやAIに代表される第4次産業革命とも称される技術革新もめざましいものがあります。また、地域社会では高齢化が進み、大学に対するニーズもより強くなっています。このような状況の中で、帝塚山大学は、実学の帝塚山として変化する時代を選ばれ続ける大学であり続けるために、単なる資格や学力だけではなく、実社会で課題を発見し解決する力が求められています。その

帝塚山大学の特色とこれからの展望について、お伺いします。
蓮花 教職員と学生の距離が近く、面倒見の良さが特色です。大規模大学ではできないことですが、学生はプロジェクト型学習で地域と接し、奈良の良さを見出してほしいと思います。外での実習の機会を充実させ、プロジェクト学習で成果を出していきたいと思っています。学部内の取組に終わらず、フィールドの開発や産学連携を通じて、大学全体のブランドイメージに結び付けていくようにしたいと思っています。歴史・文化に育まれた奈良の気品、品格、教養を大学のブランドイメージにしていきたいと考えています。
最後に、帝塚山大学で身に付けてほしい力はどのような力でしょうか。
蓮花 社会人として自立できる力です。学生には、大学の専門的知識を活用し、主体的な学びや地域の人たちとのコミュニケーションを通じ、自立した社会人として活躍できる力を身に付けてほしいと思っています。

帝塚山アーカイブズ

昭和27年4月、帝塚山学園創立10周年を記念して小学校が設立され、児童22人からスタートしました。

昭和39年、現在の学園正門付近に木造から鉄筋4階建て校舎に建て替えられ、48年には創立30周年を記念して屋上「空中運動場」となる体育館も増設されました。

現校舎は3代目。平成8年、学園の屋外プールだった場所に完成しました。学園に残された写真映像から小学校の歩みを紹介します。



1



2



3



4

〈帝塚山小学校〉

- 1 昭和30年代半ばに撮影された初代小学校の木造校舎。
- 2 昭和39年に建て替えられた鉄筋4階建て校舎。1階左が学園通用門。右側の円型校舎は短大学舎。
- 3 昭和45年の小学校卒業生。校舎屋上での記念撮影
- 4 昭和49年、小学校校庭。左手奥が体育館。傾斜地に建てられ、屋上が空中運動場になった。



T-time 第5号表紙
帝塚山小学校イメージ画

「T-time」(第5号)は、デザイン監修を、帝塚山大学居住空間デザイン学科 辻川ひとみ学科長、表紙デザインを、同学科 大里浩二准教授、表紙イメージ画は、同学科 山本史非常勤講師の協力を得て、作成しています。

「T-time」を
スマートフォンで！
スマートフォンなどでも、
「T-time」をお楽しみください。



中高同窓会だより



「成人の日」の1月14日、高校71期生の成人式（主催・中高同窓会）が学園講堂で開かれ、約7割の311人が晴れ着姿で集った。綿谷基・同窓会会長は「今の積み重ねで将来が決まる。自分と未来は変えられる」と20歳の門出を祝福。倭大丘さんと上西萌さんが「次の時代を担えるよう精進します」と誓いの言葉を述べました。



7期生の同窓会が11月14日、奈良市西大寺の月日亭で開かれ、10人が参加しました。級友と顔を見ながら話すと青年時代に戻り元気になったように思います。同窓会はこんなに楽しいことかと語り合い、来春の再会を約束し合いました。



吹奏楽部OB・OG会が11月3日、「細谷清澄先生を囲む会」として大阪上本町で開かれ約80人が出席しました。93歳になられる先生作曲の祝歌「茜雲」を先生の指揮で大合唱し、感動の声が上がりました。



中高ソフトボールOG会が11月23日、母校で開催され、20期～72期の50人と石原先生ご夫妻、大空、桂先生も参加しました。恒例の現役高校生とOGチームが対戦、懇親会で思い出を語り合いました。



バレー部OB・OG会が11月8日、大阪市のシェラトン都ホテル大阪で開かれ、12期～22期の14人が参加しました。梅田（旧姓森永）嘉代子先生を囲み、懐かしい話を伺いました。



27期同窓会が12月9日、大阪市内の杯杯天山閣で開催され42人が出席しました。全員が近況報告し合い、帝塚山時代の懐かしい話で楽しく宴が進みました。



31期生の還暦記念同窓会が11月3日、大阪市内の道頓堀ホテルで開催されました。76人が出席し、恩師の三村正明先生、山口裕子先生、中谷克己先生、池田元一先生を囲み、思い出話や近況報告で旧交を温めました。



中高同窓会は中高図書館に人気作家の小説、防災の本、科学新書など図書40冊を寄贈しました。平成24年度から毎年贈っています。



2



3



4



5



6

1 2月23日、1年の幼稚園生活の総まとめ「生活発表会」がリズム室で開かれ、園児全員による音楽劇発表に保護者は園児の成長した姿を確認しました。塚本真紀園長は「エールを送ってください。ほめてあげることで大きな自信になります」と話しました。

4 10月16日、大仏様について園児に話す大学文学部の西山厚教授。「大仏様は今年で1266歳。聖武天皇が生き物すべての幸せを願ってお造りになりました。大仏様はハスの花の上に座り、『だいじょうぶ』といつも言ってくれています」と話しました。

2 11月19日、小学校国際交流部5年生10人が幼稚園で年長児と英語遊びを楽しみました。教育連携の一環で園児はグループに分かれ、部員が食べ物や動物などの絵を見せると、園児は次々と英語で答えネイティブの教員から「グッド」と拍手が送られました。

5 1月31日、節分を前に恒例の「豆まき」が行われました。「悪い子はいないか」「泣く子はいないか」「先生のいう事をよく聞いているか」と赤鬼が教室に現れました。逃げ回り、泣き出す園児や「鬼は外」と鬼をめがけて豆を勢いよく投げる園児もいました。

3 1月30日、礼法教室で年中児にお箸の使い方を指導する茶道家の尾崎栄子さん。「グーはだめ。5本の指全部を使い、力を入れずに」と正しい持ち方を教わり、園児たちは黒豆をつまみ、横の皿に移し、「できた!」と笑顔を見せました。

6 12月18日、「べったん、べったん」と園児たちは掛け声に合わせて、小さな杵でもちをつきました。お母さんの手で小さく丸められ、各クラスで味わいました。年長児は感謝をこめ、近鉄学園前の交番や駅員さんたちにもちを届けました。

春、新たな一歩

3月、園庭の桜のつばみも膨らみ、咲き誇る春の訪れまであと少しです。

園児たちは、進級や進学へと新しい世界に羽ばたくことに胸ときめかせ、わくわくする日々を過ごしています。幼稚園は、学校教育のはじまり。遊びを通して上手く人と関われるようになったり、言葉が豊かになったり、自然の美しさや不思議さに気付いたりして、豊かな人間性を育てていきます。

帝塚山幼稚園では、それぞれの子どもたちが培ってきた土台をしっかりと固め、新しい春に向かって一歩一歩前進できるよう日々の保育に取り組んでいます。





1

2月8日、全学年がこの1年間学んだ成果を劇で発表する学習発表会が体育館で開かれました。6年生組は遠泳を泳ぎ切った達成感や入学式で迎えた1年生の手の温もりに「6年生を受け継いだ気がした」と6年を振り返りました。

4

11月14日、大学現代生活学部食物栄養学科の新宅ゼミ生9人が小学3年生にライフラインが途絶えた災害時のクッキングの指導をしました。調理の楽しさと防災意識を高めるねらい。新聞紙を折りラップを敷いた食器にも目を輝かせていました。

2

12月11日、英語発表会が開かれました。全校児童が劇やダンス、歌などのアクティビティをすべて英語で伝えました。6年生はサッカー選手やフィギュアスケーター、ゲームクリエイターなど将来の夢を語りました。

5

2月13日、小学3年生に文学部日本文学科生らが「和綴じ本」づくりを指導しました。また、「呉竹」前社長で小中高卒業生の綿谷基氏が墨の歴史と製法について解説。児童は和綴じ本に「将来の夢」を毛筆で書きあげました。

3

12月7日、平城宮跡で小学生全員が耐寒走に挑戦。第一次復原工事が進む大極殿周辺の2キロのコースを上級生は2周、下級生は1周しました。体育でランニングをして鍛え、先生方から「最後までよく頑張った」とほめられていました。

6

12月3日、サッカーJFL所属の奈良クラブ社長で中川政七商店の中川政七会長が母校の帝塚山小学校で講演。「目の前の勉強は未来の仕事につながる。自分で選べば、必ず楽しい仕事に出会え、世の中に役立つ大人になれると思います」と話しました。

根っこを深く、太く、広く根付かせる

子どもたちは、確かな伝統と恵まれた教育環境の下で学校生活を送る中で、互いを理解し合い、切磋琢磨して成長しています。

帝塚山小学校教育の根幹を成す「根っこ」を育てる3つの柱は『「考える子ども」を育てる 心を磨き「共感力」を高める 本物にふれ「可能性」を広げる』であります。

日々の教育活動を通して、一人一人の根っこを深く、太く、そして広く根付かせることで、子どもたちは、生き生きと意欲的にものごとに取り組む姿に成長します。





2



3



4



5



6

1 2月15日、高校卒業式で315人が巣立ちました。池辺政人校長は「自分にしか咲かせられない花を咲かせよう。自分を磨き人生を力強く歩んでください」と述べ、代表の森口佳凜さんが「勉強だけでなく、心身共に成長できる素晴らしい学校でした」と語りました。

4 10月15日、中学3年生は課題をポスターにまとめてグループ発表。5組女子は「働き方改革」に取り組む自動車部品メーカー、デンソーを取材し、作業システムの効率化で学び、育児、社会貢献の時間が生まれていることを紹介しました。

2 1月19日～21日、平成31年度中学校入試が行われました。定員300人に対し、志願者は2052人で、前年(1992人)を上回りました。20日に専願の合格者が学園講堂で掲示され、親子で合格を喜ぶ姿が見られました。

5 1月16日、リクルート次世代教育研究院院長、小宮山利恵子さんが高校1年生女子に講演。進路選択について「海外から見た日本を考え、自分の夢を大切にすること。やるかやらないかでキャリアが決まっていきます」。語学は「現地留学が一番」と話しました。

3 2月19日、第64回中学校コーラスコンクールが八尾市文化会館で開かれ、最優秀賞に3年8組「虹」が輝きました。1年は金賞-6組▽銀賞-7組▽銅賞-1組、5組、2年は金賞-8組▽銀賞-7組▽銅賞-10組、3年は金賞-7組▽銀賞-10組▽銅賞-2組、6組。

6 11月22日、中高音楽科主催の「たそがれコンサート」が学園講堂で開かれ、中高生20組が参加しました。ピアノ、バイオリン、声楽などが披露され、クラシックの名曲はじめ、「スター・ウォーズ」がエレクトーン演奏されました。

帝塚山中高から夢を実現する

2月15日、高校生が学園から巣立ちました。

大学生となった卒業生から、「中高での6年間はかけがえのないもの」「帝塚山で得たことすべてが今の自分の支え」「中高時代の経験が、しっかり生きています」との声が届けられています。

一人一人と向き合い、大切に育てる教育を進める帝塚山中学高等学校。

帝塚山の変わらぬ気風と伝統に支えられ、素晴らしい環境の下で、また新たな挑戦が伝統を築いていきます。





2



3



4

1 12月15日、中高理科部ロボット班の大江宏明君(2B)と須浪千聡さん(1G)ら高校生が計測自動制御学会で水道使用量をネットで確認できるシステム開発を発表。蛇口や水道メーターに取り付け、流量をセンサーで読み送信したり、グラフで可視化しました。

2月10日、延山夏穂さん、山下理子さん(1H)らは、高校生マイプロジェクトアワード関西大会で水道システム研究を発表。75チーム中5位内に入賞し、3月の全国大会出場が決まりました。

2 高校生のビジネスアイデアコンテスト「キャリア甲子園」の準決勝に高2生4チーム「うめめがり」(戒能・熊澤・柴地・竹内=写真)▽「せぶてむ」(卵園・佐藤・原田・吉村)▽「かもたろう」(和田・山内・藪野・東田)▽「Forest Island」(島谷・森本)が出場しました。

3 3月の第8回科学の甲子園全国大会に井上、狭川、重松、曾我、瀧藤、林の高2A組6人が奈良県代表として出場します。県大会で物理、情報等の筆記試験とバドミントンシャトルを的中させる機械づくりで最高点をあげ優勝しました。

4 学園(中高)同窓会は、平成30年度中に全国大会に出場した中高9クラブの生徒代表に表彰状と奨励金を贈った。表彰クラブと出場大会、生徒代表は次の通り。
【中学校】放送部=第35回NHK杯全国中学校放送コンテスト(齋藤袖芭)▽陸上部=第49回ジュニアオリンピック陸上競技選手権大会(可児愛友里)▽英語部=第70回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会(尾崎文香)
【高校】放送部=第65回NHK杯全国高等学校放送コンテスト(竹脇有咲)▽ギターマンドリン部=第36回中学校高等学校ギターマンドリン音楽祭(金山祥歩、山本優美子)▽理科部ロボット班=RCJモントリオール世界大会(藤山優太、九十九亮)▽ダンス部=第31回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(藤原陽菜)▽数学研究部=第18回日本情報オリンピック本選(木村岳史)▽陸上部=第73回国民体育大会福井しあわせ元気国体など(玉井理子、小原夢美)

個性を伸ばし、人間力を育てる

1年の締め括りとなる第3学期は、自己の成長を確かめる学期でもあります。

3学期には、コーラスコンクールや文化発表会、弁論大会、スピーチコンテスト、そして卒業式などの行事があります。これらの行事に加え、各研究成果の発表やキャリア甲子園へのチャレンジなど、経験や学びを実社会と結ぶ新たな取組にもチャレンジしています。

帝塚山中学校高等学校では、1年を通して多彩な行事を主体的に乗り越えることで多くの感動を味わい、豊かな人間性を育てています。





2



3



4



5



6

1 SBIリクイディティ・マーケットとSBI FXトレード2社と産学連携協定を締結。経済経営学部では4月全国初のFX取引(外国為替証拠金取引)で金融知識を学ぶ「経済学と金融教育」を開講します。SBIグループや教員の指導で取引を体験する学生。

4 1月29日、今年4月に教育学部開設を記念するコンサートが奈良市西部会館で開かれました。こども学科1～4年生29組が出演。ピアノ独奏、声楽、打楽器アンサンブルなどを見事に披露しました。最後は全員で「花は咲く」を合唱しました。

2 2月9日、帝塚山大学経済経営学部の中嶋航一教授、同学部の日置慎治教授、心理学部の谷口淳一教授が経済、ネットワーク、心理学の立場から「ロボットが変える教育の未来」をテーマに中学理科部ロボット班の生徒らに講義しました。

5 2月10日～12日、居住空間デザイン学科の第12回卒業研究展が学園前キャンパスで開かれました。働き方の多様化に合わせたオフィス空間などの力作が並び、辻川ひとみ学科長は「社会のニーズに対応できる作品が年々多くなっています」と話しました。

3 1月25日、小学校教員を志すこども学科の2～4年生20人が帝塚山小学校で音楽と英語の授業を見学しました。学生たちは英語での子どものコミュニケーション力、音楽の授業の中で子どもたちが元気になることが本当にすごいと話しました。

6 2月19日、「社会人基礎力育成グランプリ2019 全国大会」で、食物栄養学科の河合洋見教授のゼミ生、大塚唯弥子、岡山光幸、木村萌の3人が五條市の道の駅の学生レストランTEZUcafeについて発表し、準大賞と協賛企業賞に選ばれました。

実学教育の実践、地域・社会のニーズに対応した人材の育成

大学では「実学の帝塚山大学」を標榜し、日々教育活動を展開しています。4年間の学びにおいて、専門的知識やスキルの獲得をはじめ、それらを活用できる力、目標実現のための主体的な学び、多様な人々とのコミュニケーション、そして、社会人としての自立を目指しています。

各学部学科の学生は、それぞれの教育目標を踏まえ、「プロジェクト型学習」等を通して、自らの挑戦心をかき立たせ、様々な学問的・社会的体験に挑んでいます。





学校法人**帝塚山学園**
Tezukayama Gakuen